

千代田区

情報リテラシーに関する意見交換会 取りまとめ

令和8年5月

	1. 本取りまとめについて	 3
	2. 情報を取り巻く状況	 4
	3. 課題	 8
	4. 区の基本姿勢	 9
	5. 目指す姿と方向性の全体像	 10
	6. 取組みの方向性	 11
	7. 意見交換会実施概要	 14

1. 本取りまとめについて

近年、SNSの普及により、誰もが容易に情報を発信し、時間や場所を問わず人と人がつながることが可能になるとともに、AI技術の急速な進化・普及により、閲覧履歴やユーザーの情報を基に最適な情報が届く等、人々の生活の利便性は飛躍的に向上している。

その一方で、フェイクニュースや誤情報の拡散、エコーチェンバーやフィルターバブルといった問題も顕在化し、時に、誤った情報や偽の情報で怒りや憎しみを増大させ、現実社会においても混乱や分断をもたらしている。

こうした状況を捉え、区では偽・誤情報の拡散等に対する具体的な方策の検討に生かしていくために、令和7年7月から、外部有識者等を含めた「情報リテラシーに関する意見交換会」を開催し、多角的・専門的な観点から意見交換を実施している。

本取りまとめは、区の基本姿勢や方向性も含め、意見交換会でいただいた意見等の内容をまとめるものである。

情報リテラシーの定義

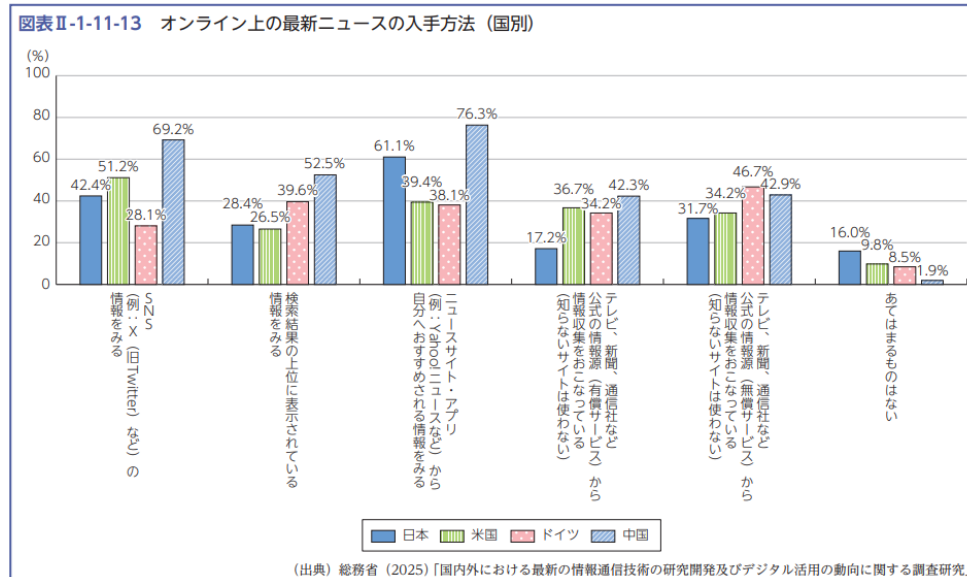
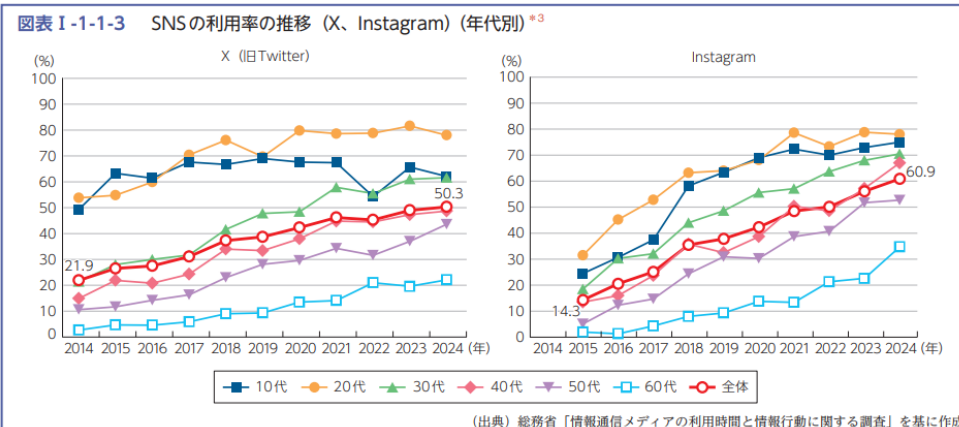
区における情報リテラシーとは、「誤った情報に惑わされずに、発信者の意図を理解するとともに、情報の真偽を見抜き、冷静に判断する力」と定義する。

2. 情報を取り巻く状況

(1) SNS等の利用状況

※令和7年版情報通信白書（総務省）を基に作成

- 令和7年版情報通信白書（総務省）によると、**コミュニケーションの手段はLINEの利用率が2024年には全体で94.9%と高く**（2014年は55.1%）、高齢者層でも60代の利用率が2014年の11.3%から2024年の91.1%へと増加
- **X（旧Twitter）やInstagramの利用率が伸び、2024年にはX、Instagramは全体の半数程度が利用**しており、全般的に若年層の利用率が高い傾向にあるが、50代でも2024年に4割以上が利用するなど幅広い年齢層に利用が拡大
- 動画共有サービスの利用動向は、**YouTubeの利用率はほぼ全世代において高く**、2024年において50代までの各世代で8割を超え、60代でも7割以上が利用。TikTokは特に10代、20代の利用率が近年大きく伸びており、2024年にはいずれも半数を超えている。
- 普段利用しているデジタルサービスは、「インターネットショッピング」、「メッセージングサービス」、「SNS」、「情報検索・ニュース」といったサービスの利用者が60%以上と多くなっている。
- **オンライン上でニュースを知りたいときの行動として、「ニュースサイト・アプリからのおすすめ情報を見る」（61.1%）、「SNSの情報を見る」（42.4%）の割合が高く**、テレビ、新聞、通信社などの既存マスコミを頼る人は相対的に少ない結果となっている。



XやInstagram、YouTube等を中心にSNSの利用が伸びており、ニュースサイト・アプリのおすすめやSNSから情報収集することが多い傾向

2. 情報を取り巻く状況

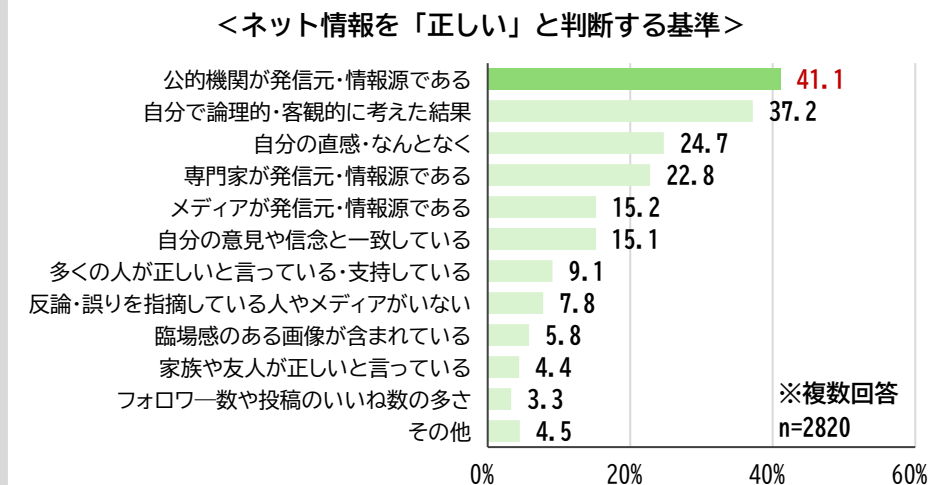
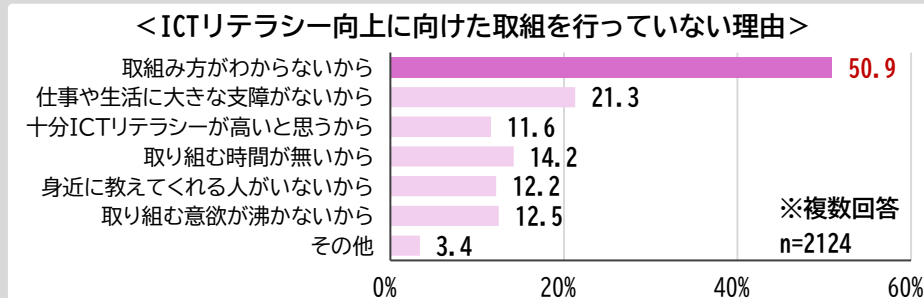
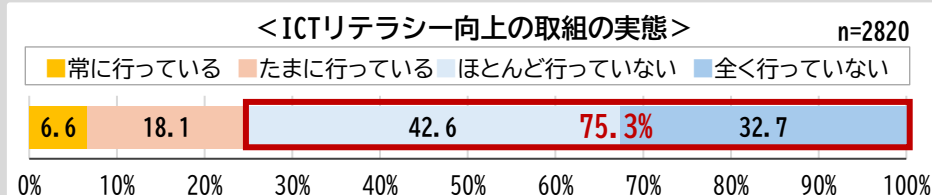
(2) 偽・誤情報の拡散傾向等

※ICTリテラシー実態調査資料（総務省）を基に作成

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、「**正しい情報だと思う**」、「**おそらく正しい情報だと思う**」と回答した人は約半数（47.7%）。偽・誤情報に接触した人のうち、25.5%の人が何らかの手段を用いて拡散していた。
- 自身のICTリテラシーに関する取組の認識と理由については、87.8%が ICTリテラシーが重要だと回答した一方、「**ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない**」、「**全く行っていない**」という回答が**75.3%**であった。取組を行っていない理由は、「取組み方が分からないから」（50.9%）という回答が最も多かった。
- **SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準は「公的機関が発信元・情報源である」（41.1%）という回答が最多**。10代では「公的機関」、「専門家」などの回答が多く、60代以上では「自分で論理的・客観的に考えた結果」、「自分の意見や信念と一致している」などの回答が多かった。

◆ 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人の約半数が正しい情報だと考えていた状況の中、多くの人リテラシー向上に向けた取組み方がわからず、実施していない状況

◆ 人々が正しい情報だと判断する上で、公的機関の情報発信が重要



2. 情報を取り巻く状況

(3) 千代田区の児童・生徒の状況

- 千代田区教育委員会は、区が目指す「情報を読み解き自己の信念に従って行動ができる人」の育成に向け、児童・生徒の現在のリテラシー能力の自己認識を把握するため、アンケートにより調査を実施

【実施時期】

令和7年5月

【対象】

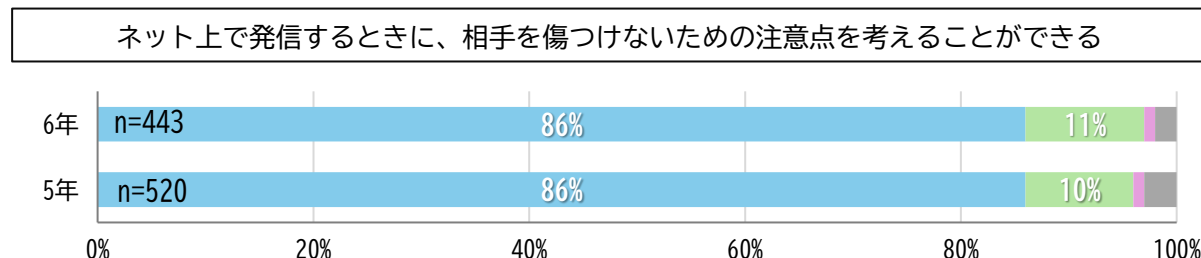
小学校5・6年生（963名）、
中学校・中等教育校前期課程（852名）

<比較的高い能力が示された項目>

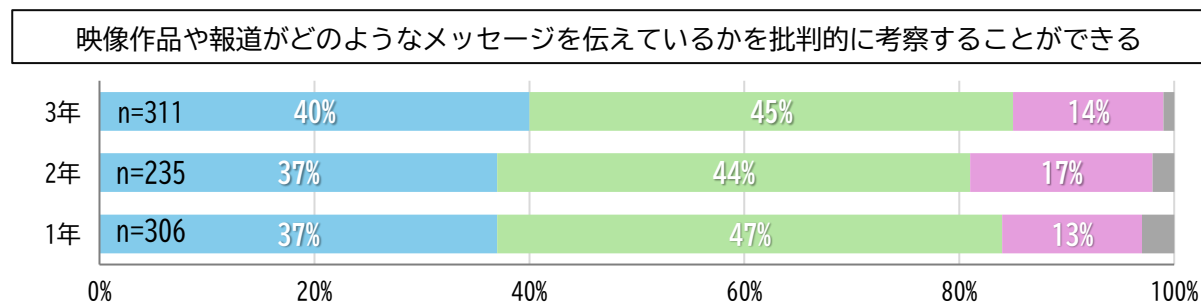
- ▶ オンラインコミュニケーションにおける配慮
- ▶ 自己の行動が周囲・社会に与える影響の認識
- ▶ 発信者の立場による伝え方の違いの認識

<育成に課題がみられる項目>

- ▶ 確かな情報を見極める力
- ▶ 事実と意見を区別する力
- ▶ 批判的に読み解く力
- ▶ 自分の考えを形成する力



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない



区ではこれまで「ちよだリテラシー教育」を教育課程に位置付け、言語能力を育む指導や読書活動、情報モラル教育の充実等に取り組み、アンケートは全体的に良好な結果であった一方で、事実と意見を区別する力や批判的に読み解く力など、育成に課題がみられる項目も存在

2. 情報を取り巻く状況

(4) 偽・誤情報の拡散に関する事例

- 国内外で政治に関する偽画像や動画の拡散事例のほか、災害時にはディープフェイクの拡散、避難所に関する誤情報、寄付を募る偽サイトなどが散見された。
- 区では、誤情報ではないが、マスコミ報道に端を発したSNS上の情報拡散によって、一時的に混乱が生じたことがある。区立中学校でヒップホップダンスをめぐる報道があり、SNS上で話題となり、学校に問い合わせが相次いだ事例があった。
- 偽・誤情報等の拡散は、単なる勘違いや誤認識によるものだけでなく、インプレッション数による収入構造、承認欲求、人の持つ認知バイアスなど、多くの要因が存在すると考えられる。

(参考) 認知バイアス

経験等に基づいて無意識に非合理的な考え方をしてしまう。誰もが持っている偏りや先入観。

- ▶ 自分の考えに合う情報だけを選択
- ▶ 繰り返された情報を真実だと思い込む
- ▶ 興味・不安・怒りで情報を拡散させる など

<能登半島地震における誤情報事例>



出典：日本ファクトチェックセンターHP



<過去の他国の動画が拡散された事例>



<生成AIの作成画像が拡散された事例>



(参考) 法務省「インターネット上の誹謗中傷書き込み削除依頼の手引き」

法務省は、SNS等での誹謗中傷、偽情報による名誉棄損等の被害が深刻化する中、被害者が自ら書き込みの削除を求めるための手順を示した手引きを令和8年3月に公開。令和7年4月施行の情報流通プラットフォーム対処法による運営事業者への削除対策の強化の義務付けに加え、個人でも迅速な削除要請を可能とし被害拡大を防ぐ。



※画像はAIで作成

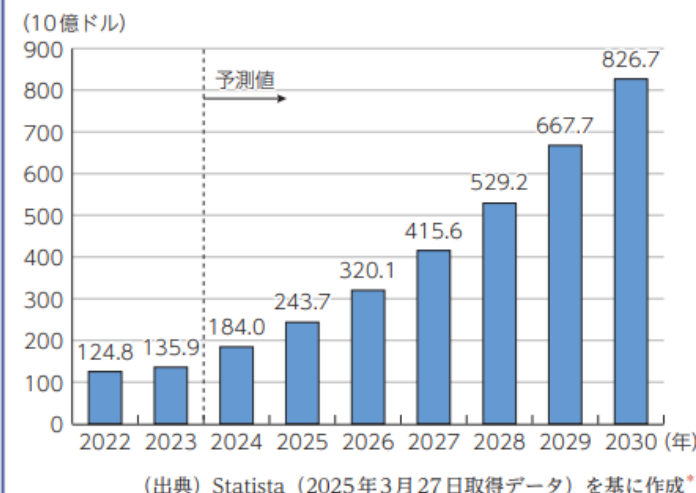
新型コロナウイルス感染症、災害、選挙など、大きな社会変動が起きる際に、特に偽・誤情報の拡散が散見される。

誤情報等はSNS登場前もあったものの、SNS等により情報を取り巻く環境が大きく変化中、一人ひとりの生活に身近な問題となっている。

3. 課題

- AIの進化・普及により、今後さらに生活の利便性が向上していくことが期待される一方で、フェイクニュース拡散等の深刻化が懸念される。
- **災害時における偽・誤情報の拡散は生死に関わる問題であり、平時においても偽情報等で怒りや憎しみを増大させ、混乱や分断をもたらすとともに、誹謗中傷や人権侵害に繋がる恐れがある。**
- **多くの人が情報リテラシー向上の取組みを行っていない（約75%、ほとんど行っていないを含む）。その理由として、「取組み方がわからないから」が最も多い状況である。**
- ネット情報等を「正しい」と判断する基準を「公的機関が発信元・情報源である」と考えている人が多い（約40%）ことを踏まえると、**区の情報発信をさらに迅速かつ積極的に行うことが課題**である。
- SNSの普及等により、情報を取り巻く環境が大きく変わる中で、現代社会に対応した**区の情報収集手段の強化が課題**である。

図表Ⅱ-1-9-1 世界のAI市場規模（売上高）の推移及び予測



図表Ⅱ-1-9-2 国内AIシステムの市場規模（支出額）及び予測



出典：令和7年版情報通信白書（総務省）

4. 区の基本姿勢

区の基本姿勢

- 区民が誤った情報に惑わされずに、情報の真偽を見抜き、安全・安心に生活できるように、区民一人ひとりの情報リテラシーを向上する取組みを推進する。
- 情報リテラシーを形成する読解力や情報理解力の向上に向け、幅広い年代を対象にアプローチしていく。特に、子どもへのリテラシー教育を重視する。
- これまで以上に社会の情報にアンテナを張り直ちに情報収集、確認に努めるとともに、誤情報等に対しては、区の持つ正確な情報を迅速かつ積極的に発信していく。

5. 目指す姿と方向性の全体像

目指す姿

区民が、AI・情報社会において、安全・安心に、豊かな生活を送ることができる

方向性1 区民一人ひとりの情報リテラシーの向上

全世代

講演会等の開催、HP等での周知啓発、読書活動推進、文字活字文化の継承・発展

高齢者

講習会での周知啓発（スマホ教室の中で利活用推進とあわせて新たに実施）

方向性2 リテラシー教育の推進

子ども

五つの柱のもと体系的に「ちよだリテラシー教育」を推進し7つの力を育成

保護者

ちよだスマートスクールでの授業公開、子どもへの教育を通じた周知・啓発

方向性3 区の迅速かつ正確な情報の収集・確認・発信

情報の収集

現代社会に適した手段により、迅速に社会の情報を収集・把握

情報の確認

収集情報の共有・確認の迅速化のため、庁内の役割分担の明確化及び連携強化

情報の発信

ファクトシートの公表等による積極的な情報発信、区発信情報であることの明確化

6. 取組みの方向性【区民一人ひとりの情報リテラシーの向上】

方向性1 区民一人ひとりの情報リテラシーの向上

全世代への取組み

- 情報リテラシーに関する講演会等を実施する。区民一人ひとりが当該問題を自分事として捉えられるよう、ワークショップ形式や体験形式などの工夫を行う。
- 総務省のデジタルポジティブアクションで発信している多様なコンテンツ等を積極的に活用し周知啓発を図る。
- 情報リテラシー向上には、言語活動（読む・書く・考える・伝える）が重要であり、読書活動の推進を通じて、情報を読み解く力の向上を支援する。



令和7年12月に、SNS時代の人権をテーマにした講演会にあわせ、情報リテラシーに関するトークセッションを樋口区長と意見交換会メンバーである山口氏（P14参照）で実施

高齢者への取組み

- デジタルにチャレンジしたい高齢者等に対する支援として、スマホ講習会や相談会等を開催するとともに、スマホの購入を支援している。
- 引き続き、スマホ講習会等を実施することで、デジタルの利活用を支援するとともに、偽・誤情報への注意喚起などを盛り込むことで、高齢者の情報リテラシーの向上を図る。



千代田区の地域特性を活かした取組み

- 千代田区には、世界有数の規模を持つ古書の街として知られ、歴史と文化が息づく「神保町」に加え、大学や出版社、報道機関が集積する地域特性を有している。
- 神保町は、英国のタイムアウト誌において「世界で最もクールな街」第1位に選ばれるとともに、「神田古本まつり」が「第30回ふるさとイベント大賞」で大賞（内閣総理大臣賞）を受賞するなど、注目を集めている。
- 文字活字文化の継承・発展など、地域特性を踏まえた情報リテラシー向上の取組みも検討していく。

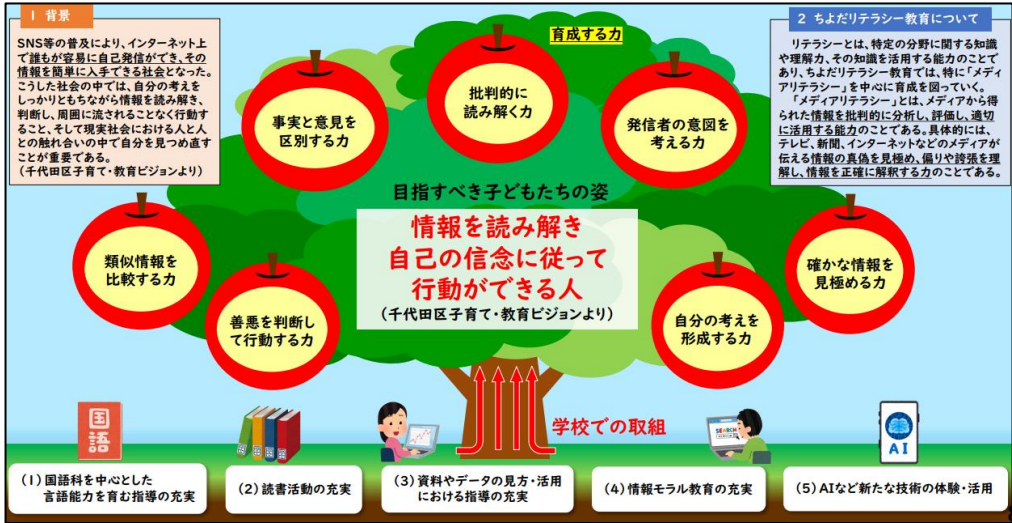


6. 取組みの方向性【リテラシー教育の推進】

方向性2 リテラシー教育の推進

子ども・保護者への取組み

- 区では、全国に先駆けて「ちよだリテラシー教育」を教育課程に位置付け、これまで、①国語を中心に言語能力を育てる、②読書活動の充実、③資料やグラフを通してデータを読み解く、④情報モラルを身につける、⑤AIなど新たな技術の体験・活用という五つの柱で体系的にリテラシー教育を推進
- 今後は、これまでの児童・生徒自身の自己認識の実態把握に加え、習熟度の実態をより正確に把握することで、各取組みをブラッシュアップするとともに、「ちよだリテラシー教育」を指導計画に盛り込み、各教材も活用しながら、さらに拡充していく。
- また、これまで実施している「ちよだスマートスクール」での保護者への授業公開を引き続き実施するとともに、児童・生徒への情報リテラシー教育を充実することで、子どもを通じた保護者の情報リテラシーの向上にも繋げていく。



1 目指すべき子どもたちの姿 「情報を読み解き、自己の信念に従って行動ができる人」(千代田区子育て・教育ビジョンより)				
○AIなど新たな技術も活用しながら様々な情報(書籍・新聞・インターネット等)を収集して読み解き、批判的思考力を働かせながら正しく判断できる人 ○自分の考えを表現する方法を相手や目的に応じて適切に選択し、責任をもって情報を発信できる人				
2 実現に向けた5つの柱と具体的な取組				
柱1 国語科を中心とした 言語能力を育む 指導の充実	柱2 読書活動の充実	柱3 資料やデータの見方・活用における 指導の充実	柱4 情報モラル教育の 充実	柱5 AIなど新たな技術の 体験・活用
○学習指導要領の着実な実施 ○年間指導計画を基にした意図的・計画的・系統的な指導 ○ICTや思考ツール等を活用した授業改善(「ICT活用ハンドブック」の活用促進) ・叙述を基にした読み取り ・情報収集の種類と留意点 ・新聞の書き方、読み方 ・作文指導と相連 ・相手や目的に応じた資料作成と発表	○読書時間・機会の確保 ・読み聞かせ ・ブックトーク ・ビブリオバトル ・読書仲間 ・Yomokka!の活用(小) ○図書館司書等と連携した学級文庫・図書室の充実 ○関係機関と連携した読書体験の機会創出	○学習指導要領の着実な実施 ○算数・数学、社会、理科の授業改善 ・データの多面的な把握、事象の批判的な考察 ・社会的事象に関する情報の収集・読み取り・まとめ ・観察記録や実験データの整理・分析・考察	○外部団体を活用したセーフティ教室 ○保護者と連携した情報モラルに関する理解啓発 ○道徳や特別活動、安全指導等、年間指導計画を基にした意図的・計画的・系統的な指導 取扱例:フェイクニュースやSNSの利用等、実態に応じて指導	○教員による校務・授業での生成AIの活用 ○生徒による生成AIの活用(中・中等教育学校) ○新たな技術を活用した学習の試行 ・ドローン ・3Dプリンター ・VR等
育成を目指す力:ITリテラシー、情報リテラシー、メディアリテラシー等(言語能力、情報活用能力)				

方向性3 区の迅速かつ正確な情報の収集・確認・発信

正確な情報を、
迅速に、
継続的に

情報の収集

- 区民生活の混乱や区政の信頼確保の観点から、影響のある情報を早期にキャッチするため、「**ソーシャルリスニングツール**」を活用するなど、現代社会に適した手段により情報収集を強化していく。

情報の発信

- 正確な情報を、適切な手法やインフルエンサーの活用などにより、積極的かつ確実に伝えることで、区民との信頼を形成する。
- 迅速な発信を重視（情報が事実かまだ確認されていない場合には、その状況自体を伝えることも重要）。
- 必要に応じて継続的（繰り返し）に発信
- 「**オリジネータープロフィール**」を活用するなど、発信された情報元が区であることを積極的に示していく。

情報の確認

- 広報部門を中心とした報道対応など、これまで以上に区役所内の役割を明確化し、連携を強化することで、多様な視点で迅速に事実内容を確認する。
- AI等のデジタル技術の活用も含めた情報の確認手段の充実を検討していく。

ソーシャルリスニングツール

SNSやブログ等のインターネット上で発信される情報を収集・分析するためのツール

オリジネータープロフィール

情報の作成者や発信者に関する情報を改ざん不可能な形でホームページ等に付与する技術

7.意見交換会実施概要

(1) 開催目的

多角的・専門的に意見交換を実施することで、区民生活に及ぼす影響に関して理解を深め、基礎自治体である区が担う役割やA I技術の動向を踏まえた具体的な方策等の検討に生かしていく

(2) 開催実績

第1回（令和7年7月24日）

- 開催主旨、スケジュール
- 現状・課題認識の共有

第2回（令和7年11月17日）

- 区の取り組みの方向性

第3回（令和8年3月26日）

- 意見交換会取りまとめ案
- 令和8年度の区の取り組み



(3) 出席者

※敬称略、五十音順

氏 名	所属等
新庄 秀規	読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局長兼活字文化推進会議事務局長
町田 智子	公益財団法人文字・活字文化推進機構専務理事
山口 真一	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター教授・主幹研究員
吉田 奨	一般社団法人セーファークインターネット協会専務理事 ※ゲストスピーカー
非公表	プラットフォーム事業者 ※ゲストスピーカー

(千代田区)

氏 名	所属等
樋口 高顕	区長
藤本 誠	副区長
小林 聡史	副区長
大森 幹夫	子ども部教育担当部長
中田 治子	地域振興部文化スポーツ担当部長
村木 久人	政策経営部長
夏目 久義	政策経営部デジタル担当部長
御郷 誠	政策経営部行政管理担当部長

(オブザーバー)

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室
東京都 デジタルサービス局 デジタル戦略部

(4) 主な意見

<情報リテラシーの重要性等について>

- 情報リテラシーを高めることで、より良い持続可能な社会の形成に繋がる。
- 特に災害時は、誤情報による混乱が安全に直結するため、取組みが重要である。
- A I や S N S を否定するのではなく、便利なツールとして活用しつつ、一人ひとりが情報を適切に判断していくことが重要である。
- 情報発信をする側も偽情報のリスクを認識し責任を持つことが必要である。

<教育・啓発について>

- 情報リテラシーは必ずしもデジタルの話ではなく、情報を収集し、正確に読み取っていく力が本質である。読む、書く、話す、考えることによって、思考や判断力が磨かれる。
- 読書が大きな役割を果たす。読解力や情報理解力の向上は中長期的に取り組む必要がある。
- 各世代が「自分事」として問題を捉えられるよう、幅広い層へのアプローチが必要である。
- 情報の発信者や変更の有無などを確認することの重要性や方法を啓発していく必要がある。
- 民間企業等は講師派遣等も行っているため、企業等と連携することも効果的である。

<行政の情報発信について>

- 誤情報への対応は、反論ではなく、事実の公表に徹し、行政自身が持つ正しい情報を積極的に発信していく姿勢・考え方が重要である。
- 緊急時には、迅速な情報発信が求められるが、情報が事実かまだ確認されていない場合には、その状況自体を伝えることも重要である。
- ウェブサイトに発信者情報を付与する「オリジネーター・プロフィール(OP)」といった技術があり、実証実験を実施している。
- 「監視」ではなく、あくまで情報の把握のため、S N S のモニタリングは実施した方がよい。

- ▶ 近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、**区民・国民の「読書離れ」、「活字離れ」**が指摘
- ▶ 読書は、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操をはぐくみ、すべての活動の基盤となる**「価値・教養・感性等」を生涯を通じて涵養**していく上でも、極めて重要なもの
- ▶ 特に、変化の激しい現代社会の中、自らの責任で主体的に判断を行いながら、自立して生きていくためには、**必要な情報を収集し、取捨選択する能力を身に付ける必要**
- ▶ これからの時代においても、**読み・調べることの意義**は、増すことはあっても決して減ることはない

「文字・活字」文化に係る区のスタンス

- 世界に誇る古書店街が広がる神保町を擁する千代田区が、**「文字・活字」文化を官民連携して、時代を超えて継承し発展**させていく必要
- 手軽さなど**動画**のメリットは活用するものの、**文字・活字の上位互換にならない**
- 紙媒体は**記憶の定着に有利**なことに加え、**新しい思考や創造的な発想に役立つ**との研究結果を尊重しつつ、時代の変化にも対応できるよう、**書籍とデジタルツールはハイブリッドで活用**

感性を養ったり知識を得ることに長けていると言われる紙媒体と、アクセス性や利便性の高いデジタル双方を生かしながら文字活字に触れることで、情報リテラシーの形成も後押し